

西園寺邸跡

西園寺家は、琵琶の宗家であり、文化的活動にも貢献した有力政治家を数多く輩出したことで知られる貴族の名門です。一族の中でも最も有名な人物の一人が西園寺公経です。公経は大変力のある政治家で、太政大臣として活躍しました。彼は西園寺を創建し、その境内に妙音堂という名のお堂を建てました。さらに、現在金閣寺が建っている場所に北山殿と呼ばれる別荘を建設しました。

和歌を詠むことは宮廷やその周辺に暮らす貴族達の文化生活において、中心的な役割を果たしていました。公経は北山の西園寺で催された歌会で、次のような和歌も残しています。

山ざくら峰にも尾にも植ゑおかむ見ぬ世の春を人やしのぶと

(新勅撰和歌集 1040 番)

西園寺家が東京に移った後の 1878 年、神仏分離令により妙音堂は神社へと変えられました。そして、神社のすぐ北に位置する白雲村にちなみ、白雲神社と改名されました。さらに後になって、20 世紀の初頭に二度にわたって総理大臣を務めた西園寺公望が、この地に私塾・立命館を設立しました。